

認知症コラム



認知症専門医による認知症予防についてのお話

認知症専門医で神奈川歯科大学教授である眞鍋先生に、認知症予防について教えていただきました。

認知症 600 万人時代。関心の高い「認知症」ですが、誤解や流言も多く、特にインターネットの世界は認知症予防を中心に、似非(えせ)医学情報で溢れ返っているのが現状です。こうした状況において、「認知症」を正しく理解することこそが、認知症予防の第一歩と言っても過言ではありません。

さて、ここまでお読み頂いた段階で、「はて？」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実は、「認知症予防」という用語、大いに問題のある言葉なのです。どういふことでしょうか。以下に説明してみたく思います。

そもそも「認知症」は、何等かの疾患が原因となり、社会生活に支障を来した状態を指す“病態名”です。従って、「認知症」という単一の疾患が存在する訳ではありません。原因疾患毎に「認知症」の症状は異なり、前頭葉の障害が原因で、物忘れはないけれど自分の置かれた状況を判断、理解出来ず、場にそぐわない反社会的行動を取り社会生活に支障を来した場合も「認知症」。内容は理解出来るのに、主題に応じた言葉を上手く選択して意思を伝えることができないことから社会生活に支障を来した場合も「認知症」となります。前者は前頭側頭変性症という病気による前頭側頭型認知症、後者は同疾患を原因とする意味性認知症と呼ばれる「認知症」です。残念ながら、これらの「認知症」を予防することは出来ません。一方、物忘れを主症状とするアルツハイマー病が原因のアルツハイマー型認知症や脳卒中を原因とする脳血管性認知症は、早期からの一次予防で「認知症」状態の招来を回避する可能性を持つ「認知症」です。「認知症」は予防できる。誇大な表現であることが、お分かり頂けたでしょうか。

「認知症」といえば物忘れ、物忘れといえばアルツハイマー病、こうしたステレオタイプな理解から脱却し、何らの病気が原因で社会生活に支障を生じた状態が「認知症」。正しい理解こそ、認知症予防の第一歩と言えるでしょう。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)